

あ・と・が・き

軽種馬育成調教場の1日の最高利用頭数は例年春先に記録されており、その数はここ数年来500頭台で推移してきましたが、今年はずでに2月に600頭を越え、記録を更新中です。春のトレーニングセールや競馬場入厩に向け、若馬の調教に活気を帯びてきました。

育成調教技術者養成研修22期生は1月からのJRA日高育成牧場の育成馬(2歳)の騎乗実習を通して、この時期の若馬調教の大変さを実感しています。研修終了後は即戦力として馬産地に貢献できるよう努力しておりますが、いよいよ4月15日に修了式を迎えることとなります。また、4月12日には新研修生が入講します。今後とも皆様方のご指導・ご協力をお願いいたします。(Y.H.)

「たづな」欄は当センター元理事長であった上原日本ウマ科学会会長に寄稿していただきました。競馬界は海外交流によって新しい技術や知識が多方面で導入され、発展してきました。今後は多くの日本産馬が世界のG1競走で活躍することを期待したいものです。

「サイエンティストからの提言」欄の内容は、昨年JRA創立50周年記念事業として総研が開催した公開シンポジウムにおいて八田先生が招待講演されたものでもあります。(乳酸は疲労の原因である)、現在、これが我々ウマ関係者の一般的な認識だと思いますが、これとは少し違う学説です。皆さん、ご参考に！！

「やさしい育成技術」欄はJRA総研において腱の研究をされている笠嶋研究役に、競走馬の宿命・不治の病とも言われる屈腱炎について最新の情報を取り入れた、わかりやすい解説をお願いしました。2回シリーズで掲載します。日頃の業務に活用できることもあると思います。人は頭を冷やしてクールに、馬は脚を冷やして快調にいきたいものです。

「BTCからのお知らせ」欄は去年の利用状況です。今年も育成馬の調教が円滑にそして安全に行えるように努力いたしますので、よろしく願いいたします。(H.H.)